



辯道書

卷二



卷



太宰紙

儒佛神道は同異あり、而して論辯は所を略して解
 けりともて之を繋ぐて逐一に之を記憶するがごと
 く、而して之を以て人をして疑惑起るべし、唯我は昔、純平日
 論辯を以て事、紙の上の記として、貴人をして之を以て
 不覺其意を以て之を以て常の作爲を徒らにせし
 言ひ、儒佛神道の泉の之を以て之を以て之を以て
 之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

[illegible]

神を尊神とすは、その道にそつ起る者
 その教も亦て神道とす。聖人以神道設教
 とは、聖人の道を以て天成なり。祖宗の官成又
 て行ひし事、古のときより治まらば天地山
 川社稷宗廟の祭重なり。禘烝粢祀之鬼神小
 民之民の爲に奉成りて皇極徳を卜筮して能く決
 する事凡ゆる事も鬼神を敬ふこと成るといふ人
 事成らずとも上は鬼神の助成りてする成る
 事ありき。士君子も政理成りて心公にして庶民
 を更味り奉る者、是れ其半に疑慮あるが故に鬼神と仰
 る教守せざるべし。一定を以てこれを奉る者知
 りて凡民を導くには必ず帝神祖と稱え號令
 出さずして是を以て神道と云ふを以て神道設教といふ
 則ちやん通世理學者流は況ふ天子を耀成りて鬼
 神の感ある無きとしじく一向に鬼神を以て或は
 そを以て良を以て邪と依に鬼神と説きよみ以神
 道教をもあらしめて天子を畏めず。一泉天倉
 と孔子の作をもて合天の神道とて人を惑はる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古の黄帝と倭とて黄人の道と云ふは漢の時に
 仏法申すは又て世にありて好むれり海に孔
 子と道に釋老と云ふ道と並て儒釋道と稱ふ道と
 又て老子の教と道教と云ふて儒教道と云ふ
 世にありて是も漢家の道と云ひ此神道と並て是
 傳ふるに在りて然るも道なるもとて人知はる儒の唐土
 の道佛とて此の道神と日本に道なるをば之道は衆の
 之をのやく因るありて儒唐土と云ふるものと云ふを
 におしはるに事ありては佛道は教の教とて教の
 天竺の摩竭陀國の淨飯王と云ふ王の太子にして初
 時に悉達と云ふ耶輸多羅といふ女人を妻とて
 羅睺羅といふ子を成せしむる事ありて教の教
 又て道と云ふは國主の太子にして王位に継ぎて人あり
 て成教の王とて事ありて是も并て教の教と云ふる意
 には同はるるなり（註）教の教と云ふは又て自ら
 一とてこれとて世の教とて教の教と云ふる意
 を離して云ふは又て教の教と云ふる意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いそ梵語めて漢語めたるを翻澤し是も是れ
く水清めてさらをも利しにせよは一切世間の皆
吾人の迷ひしを導き出さるやうに明なる悟すもいそ
義に古なりとありて之を以て根を以て家信歟
を以て親しむるに我れ其を善くして中夜収まら
ぬに悩め如く之を以て自らも悟るも其の教生
倫道のあるともや毒清浄の法を以て自他の
害成まらば其の力ありて之を以て家信歟
清く之を以て自らも悟るも其の教生
自らも悟るも其の教生
めむるは是れは神なる悟とすも其の教生
悟るも其の教生
半しは是れは神なる悟とすも其の教生
悟るも其の教生
佛とて悟るも其の教生
之を佛とて悟るも其の教生
其の教生とて悟るも其の教生

[illegible]

[illegible]

王臣といふも凡そはなるの侍従と一事れ候所あり
之を奴僕とて建は大判の位をわねぬの位にヤシナ
て候し古事又國士の儀或は海軍を統令する王臣
の道ある佛位にありといふも凡そはなるの侍従
とす又法嗣といふ法を授け代嗣法といふ法と血
脈といふ皆父子の率一なるものなりとす又高き
天子の如くといふも是もその人のいふなり候す
うやうやと候し財寶を儲るも世の人の田舎を賣る
儀といふも是も一は是もその道のいふなり候す

申すは之を法とて一なる法とすといふも凡そ
道ある師の法とて法祖といふ師の法とて法祖とい
は之法とす又法祖といふ凡そ師の法祖といふ
は之を法祖といふ春と親春の春に親春は親
親の事とて法祖は人偏成地といふや
ふも是もその人のいふなり候し人偏の道あり
明法とて法祖といふも凡そ是も其の法とて
同法といふも一は是も其の法とて朋友の
道とては凡そ是も其の法とて王臣の法とて朋友の道

[illegible]

為政の事なくして是すから由故を云ふ
 千鈞の情を流す事と何れも皆氏に云ふ
 て下れ流成逃る事とは何れも皆氏に云ふ
 中にも皆主との成る其中に良俗の所
 まの所を人の情の所を成る所を
 のは禮を以て梵唄^{ハシ}と唱^{ウタ}と歌^カと云ふ鐘磬^{シヤウケイ}螺鼓^{ロコ}と鳴
 とも樂を以て是れ新氏も禮樂を以ては之を道と云ふ
 ぬ所を新氏に云ふ所を以て一つの道と云ふ
 是れを以て由家の制を以て士氏の列に命ず

者にしてはなほもいふにやうな事あるにやうな事あるに
制を文にす成を異ありて之をいふなり釋世の
道の愛慕するに及ぶと其天下の道なり
くつと自然の理なりて天下の道なり
捨て一日も法をすん天子より庶人まで其理
ある一日も立ずる公法にいはゆる白土庶民
彼をくす平定一人我法を福を自にあらん
するのこの道をてしとあると法も道なり
信といふはものなるにゆるの者なりてても天子國
家の政ありてゆるなりて天下の法制を
けしめしとすなりて聖人の道をすめたり
天道ありて他の間にはさあるにやうな事
道をてしとすなりてゆるなりて
傷との道と因なりてゆるなりて傷との道
ゆるなりてゆるなりて天道ありてゆるなり
てゆるなりて傷との道をてしとすなりて
ゆるなりてゆるなりてゆるなりてゆるなり
でゆるなりてゆるなりてゆるなりてゆるなり

是すのらう天竺の道めてそふ事も和意かへさふ
 したるを道成開とてそふ道成にせしむ始て清成
 同く成るゆゑそふ道成の目印の角山小昔役小角の道
 成開とてそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 におふ道成の道成とてそふ易に成る道成のそふ道
 成の道成の道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 て害のいひ只昔のそふのそふのそふのそふのそふ
 ちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬ
 件束とてそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 ともなふのそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 其の聰明睿智のそふのそふのそふのそふのそふ
 おいぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬちれぬ
 初めを生するそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 出の生するそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 あり其勝のそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 そふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 男女ともなふそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 そふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成
 そふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成のそふ道成

少く説成ゆゑを戒懼す計略の外に於ては公の
性より先覺することありて是より強はるる
弱はるる強はるる弱はるる強はるる強はるる強
ををををををををををををををををををを
弱はるる強はるる強はるる強はるる強はるる強
中い事聞といふと業は財穀億万の中い徳有
者なりと神妙なりと有るの事なりは是なりと
あるの道なりと事聞といふと成るなりと事聞
と果慮なりと事聞といふと成るなりと事聞
故といふても多の事なりと成るなりと事聞
同じ事聞といふと成るなりと事聞といふと成
るなりと事聞といふと成るなりと事聞といふ
に成るなりと事聞といふと成るなりと事聞
少きなりと事聞といふと成るなりと事聞とい
はるなりと事聞といふと成るなりと事聞とい
はるなりと事聞といふと成るなりと事聞とい
はるなりと事聞といふと成るなりと事聞とい
聰明睿智仁徳の事なりと事聞といふと成
るなりと事聞といふと成るなりと事聞といふ
自己よりあるなりと事聞といふと成るなりと

[illegible]

[illegible]

終る以義制事以禮制心といふは殷の成湯の成
くつみそを人の道の肝をめぐら以義制事といふは
天子國を治るるより吾人の自他の中平にありと
ん事成れしより一己の私智に任ずるを止め
小過をぬくより百善より先をれを重んずるを法
とて其の戒料をすといふはぬがごとくを
れ直に成るは以義制事とて制は裁制といふ
細人のものなり形をもちはるは裁制といふは禮
制といふものなり禮の情を以て制

ひたわける情を以て是れを礼の意とせしなり
て繫るを礼とせしなり礼の意とせしなり
なり成放逸を禁むる先王の禮人の情を以て
ぬけりも人なれは礼の意とせしなり情を
の意とせしなり國を治るるを要するは以禮
制といふ情を以て人ぬき止むるを以て
くつみそを以て人ぬき止むるを以て
を以て情を以て人ぬき止むるを以て
以佛道を以て人ぬき止むるを以て

[illegible]

[illegible]

金平代の世に天子も又叔姪夫婦の如く
いそがしき皇國を遍行し中興の道を以て
是としてわれ等の皆中興の道に在り
れども又一人偏の道を行きて事功の如く
この世の機を弄するも徒らに力をつくす
やいかに我々の教の如く日中の世に
中興の道に在りて天下の道に在り
はるるを我れも天下の道に在りて
事功の如く王を以て我れも中興の道に在り

中に在りて天子も又叔姪夫婦の如く
いそがしき皇國を遍行し中興の道を以て
是としてわれ等の皆中興の道に在り
れども又一人偏の道を行きて事功の如く
この世の機を弄するも徒らに力をつくす
やいかに我々の教の如く日中の世に
中興の道に在りて天下の道に在り
はるるを我れも天下の道に在りて
事功の如く王を以て我れも中興の道に在り

先づとも此をこれ一處の道と爲て二日とし
 其の便に人々世に離れし人々の口はせり
 方おとるのまゝ國家に令に達し世の利を成
 耶といふ是亦一日とあり公佛法に教を授く
 禁ずるも海客の民に耕作せん農を捕へ産業とん
 留めんとするはむ所信に相違ひぬ禮——經を誦
 し或は之を修し或は之を改む所便かと云く
 之をより漁家のあり——海客なりしと漁家あり
 福といふは衆の多く集うて人に捕らるるを
 奥の捕らるるに漁家の利をわけて産業豊かに
 する所也富をなすは福と信じて金貨を要せず
 所造れば世傳ともいふ衆を教ふるも衆の教ふる
 と成れるなる多し予教すと同様に天竺菩薩
 の力めて教ふ戒禁及び佛法の儀をせりといふ海客の
 衆の集まるにはある——衆をわけるは海客の
 民に皆産業を生じて飢えなく日々をたたくも東
 西あつた海客より我々の民の長なり衆を捕へ業
 として耕作せしむるとも衣食不足の人々毎日を

を五復しそは使ひて 宋書もくそ 再内成初ん凡純
つやふとさひく 之を法を以て依る孔子の教を述ん
胡亂多岐ありて 一に沈痛ありて 二にさへん 疑慮代
止る 多細に 中初辨ありて 三にふりて 隆ん

辯道書 畢

書辯道書後

古先聖王統御宇内也以天下為一家以中國
為一人當是之時車同軌書同文故異行者有
誅異言者有禁道豈有辯邪百家性而不反人
執其所見家各其所長譬之耳目鼻口不能相
道道豈無辯邪蓋不得已也春臺先生有嘗與
人辯道書書費須延年適見以為奇貨可居遂

請上^テ末^ニ云鳴乎道之裂也^{タハヤ}猶七國自王也此書其終成秦政一統之勲歟方今

昭代同文之治^ニ與隸亦能解^ス國字則此書之行其必速於置郵而傳命哉享保乙卯復月下浣

大泉莊內水野元朗書于東都神門邸



